

今年度の活動計画

－ 社会に開かれた工学研究所をめざして－

許 瑞 邦*

Report on Annual Activities

-Toward Contribution for Society and Industry -

Zuihou KYO*

今年度も『内部の所員だけでなく、外部の社会に対しても役に立つ開かれた工学研究所』を目指します。特に外部に対しても開かれた工学研究所を実現するため今年度は以下の行事等を企画・実施を予定しています。

1. 工学研究所の公開（10月20日）の企画・実施

昨年度は工学研究所公開を神大フェスタに合わせて急遽試験的に実施しましたが今年度は工学研究所の研究成果とポテンシャルを外部に示す工学研究所の公開の準備を4月より始めました。現在招待講演+大型研究設備の公開・実演+プロジェクト研究・共同研究の成果発表+ポスタ発表・実演といった具体的なプログラムを作成しこの実現に向けて鋭意努力しています。

2. 工学研究所プロジェクト研究 (A,B,C)の募集

昨年度より外部との交流を積極的に推進する事を目指したプロジェクト研究 (A,B,C)の制度が発足し現在プロジェクト研究 A 1件、プロジェクト研究 B 1件、プロジェクト研究 C 2件が工学研究所内で承認され研究が進行しています。またこのプロジェクト研究に関連して現在2名の客員研究員と1名の特別研究員の採用が認められております。今後も所員からプロジェクト研究を積極的にご提案頂き研究所をより所員に役立つ研究所にする積もりです。因みにABCの内容は

A=研究員を採用（研究組織の充実）し実行する研究

B=外部の研究資金の獲得して実行する研究

C=社会のニーズに合った課題研究所を設立して研究

3. 研究支援専門部会の発足

従来共同研究およびプロジェクト研究申請の審査を担当していた委員会ですが今後審査のみでなく所員の研究及び外部との交流をもっと積極的に支援する部会として今年度より研究支援専門部会（委員長 田嶋教授）を発足させ活動して頂いております。

4. 連続講演会の企画と開催

今年度より工学研究科研究委員会（委員長 青木教授）の提案を受けて工学の外部社会への還元の一環として毎年以下の2種類の連続講演会を工学研究科・研究所共同で企画・開催することに致しました。2種類の連続講演会の開催趣旨は以下の通りです。

- 1) 「暮らしの中のサイエンス」：多くの人が関心を持ち一般の人の実生活に役に立つ講演会。
- 2) 「科学と工学の最前線」：科学と工学に関して専門的だが分かりやすく 専門家でも視野の広がる講演会。

工学研究科・工学研究所合同の講演会 WG（責任者 井川教授）を構成し具体的な企画を行い 広報部の協力を得て実施することに致しました。講演会 WG では今年度は以下の題目で連続講演会を開催する予定です。

- 1) すまいと地震（暮らしの中のサイエンス）
企画責任者：荏本教授、講師4名、4日間
- 2) 環境問題の最前線（科学と工学の最前線）
企画責任者：井川教授、講師6名、2日間

5. 各種イベントの積極的参加の企画

毎年イノベーションジャパンを始め10前後の権威あるイベントが開催されております。このイベントは工学に関する本学の研究成果とポテンシャルを外部に積極的に展示・発表する格好な場となり得るので 各イベントに相応しい統一的題目の企画とその実行を研究委員会および産官学連携推進室と協力して推進しています。出席発表者には大変な負担ですが 本学の工学の実力を外部に知って頂く良い機会ですので 所員各位には積極的なご協力をお願いする次第です。

6. 工学研究所所報30周年記念号の発刊

本工学研究所は1976年6月に発足し 所報を翌年より毎年発刊し今年で30年目となる記念すべき年ですので 工学部長に記念の原稿執筆を依頼しました。